

仙台大学 広報室



Monthly Report

平成25年度 仙台大学入学式を挙行



入学者を代表して宣誓する蜷川七海さん＝仙台大学第五体育館

4月6日（土）、本学第五体育館で「平成25年度仙台大学入学式」（第47回体育学部及び第16回大学院入学式）が執り行われました。体育学部625名（編入学生12名含む）、大学院31名、計656名の入学生を迎えました。朴澤学長から656名全員に入学許可告知がなされた後、入学者を代表し

にながわなみて、蜷川七海さん（体育学科1年－東京・駒場高校出）が「私たちは、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探究し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活を送るよう、努力して参ります」と力強く宣誓しました。

次に、来賓の滝口柴田町長からご祝辞（平間副町長代読）たいとんだいがく りゅうを頂き、さらに、仙台大学と国際提携大学である台湾・台東大学の劉学長が本学の入学式に初めてご出席され、「仙台大学と台東大学の交流は2003年に両校の交流協定を結んでから、丁度10年になりました。この10年間に、ダブルディグリー制度の実行・教員の派遣・シンポジウムの開催・共同研究などの交流が行われてきました。積極的な学術交流を通して、様々な実績を見ることができました。台東大学を代表して、貴大学の発展及び両校の友好、ますますの発展を祈っております」とご祝辞を頂戴致しました。

入学生一人一人の大学生活が豊かで充実したものになることを、心からご祈念申し上げます。

< 目 次 >

平成25年度 仙台大学入学式を挙行	1
平成25年度 新任者紹介挨拶	2
台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を締結	4
スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミーが「優秀賞」を受賞	5
第7回しばたまちさくら回廊ポート体験会を開催	6
学生の競技結果	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関
にも旬な話題を提供していきたいと考えて
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、
広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



平成25年度 新任者紹介 挨拶(平成25年4月1日付)

— 教員8名・事務職員2名・新助手7名・臨時職員7名の計24名が着任 —








【教員8名】

<p>阿部 芳吉 教授 (合議制担当副学長)</p> 	<p>スポーツは見る、する、支えるのすべてが好きです。皆様からご指導ご支援を賜りながら質の高い学生を育成して参りたいと存じます。空手道部の学生たちと稽古できるのが、とても楽しみです。</p>	<p>若井 彌一 教授 (合議制担当副学長)</p> 	<p>今から30～35年前、まだ本学が質素な施設・設備の頃、教職を目指す学生達と共に燃えました。再び皆さんと共に夢や志を実現できるよう全力を尽くす決意です。</p>
<p>斎藤ちさ子 教授</p> 	<p>自然豊かな船岡の地で、エネルギーあふれる若者とともに学ぶ機会に恵まれうれしく思います。楽しく、きびしく、しなやかに頑張りたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。</p>	<p>久能 和夫 教授</p> 	<p>「地元に戻り教員になりたい」。研究室を訪ねてきた学生の澄んだ瞳が心に残りました。学生に優しい環境づくりがされている本学の教員として、その思いに応えていきたい。</p>
<p>志賀野 博 教授</p> 	<p>全学の皆様、初めまして。縁ありまして本学にお世話になることとなりました。機能する生徒指導のあり方を、学生の皆さんと一緒に授業の中で探索しようと考えています。</p>	<p>高橋 義夫 教授</p> 	<p>新聞社在勤38年の後、更生保護行政に携わりました。元野球少年でしたので、スポーツ面作りには力が入りました。担当は「マスメディア」。情報について一緒に考えましょう。</p>
<p>小田 桂吾 講師</p> 	<p>本年度より講師を務める、小田桂吾です。昨年までジェフユナイテッド千葉でフィジオセラピストとして活動してきた経験を生かし、トレーナーを目指す学生と一緒に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>	<p>横田由香里 講師</p> 	<p>これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。新しい出会いに感謝しスポーツ栄養をともに楽しみ精進したいと思います。</p>

【事務職員2名】

<p>伊勢 裕介 さん</p> 	<p>教務課に配属になった伊勢裕介です。学生支援センターで学んだ2年間を生かし、仙台大学発展の力になれるように、頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。</p>
<p>笹原 聖大 さん</p> 	<p>昨年12月より法人事務局に勤務し、以前は民間企業にて会計等の仕事をしておりました。皆様と一緒に仙台大学を盛り上げていけるよう精一杯頑張ります。宜しくお願いします。</p>

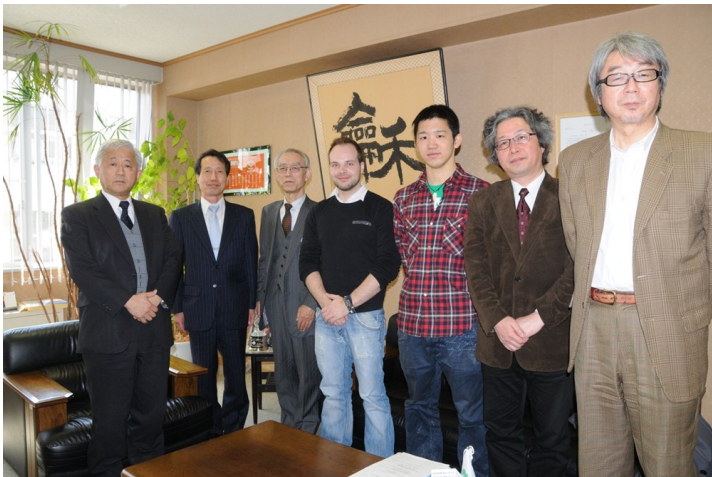
【新助手7名】

<p>鈴木のぞみ新助手</p> 	<p>昨年度までの経験を活かし、学内・外でのアスレティックトレーニング活動の復旧や、学生アスレティックトレーナー育成の手助けとなっていきたいと思います。</p>	<p>菅野 恵子 新助手</p> 	<p>宮城県に10年振りに住みます。新しい仕事・生活がとても楽しみです。早く環境に慣れ、色々学びたいと思います。明るく元気に頑張ります！！よろしくお願いします。</p>
<p>田上紳二郎新助手</p> 	<p>新助手として働くことになりました田上です。硬式野球部コーチとしてのスキルアップを図ると共に、目標の全国制覇に尽力して参りたいと思います。よろしくお願いします。</p>	<p>和泉 隼 新助手</p> 	<p>今年度より新助手してサッカー部の指導をさせていただきます、和泉隼です。昨年度まで、学生支援センターで学生ボランティアの支援をしておりました。常に高い目標を持ち、精いっぱい努力してまいりますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>千葉慎太郎新助手</p> 	<p>今年度より新助手として働かせていただくことになりました。皆様方からたくさんのご指導を学ぶことができよう、そして仙台大学に貢献できるよう努めますのでよろしくお願い致します。</p>	<p>杉山 竜馬 新助手</p> 	<p>昨年度卒業し、今年度から新助手としてGTセンターで働くことになりました、杉山です。これからは男子バスケット部のAコーチとして頑張りますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>西川 里美 新助手</p> 	<p>今年度より運動栄養学科の新助手として勤務させていただきます。新社会人として気を引き締め、創意工夫を持って務めたいと思います。ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願いたします。</p>		

【臨時職員7名】

<p>石栗 はるか さん</p> 	<p>今年度から臨時職員として働かせていただく石栗です。学生支援室で語学支援を担当させていただきます。社会人としてはまだまだ勉強不足なので、これからたくさんのご指導を学んでいきたいです。ご指導よろしくお願いします。</p>	<p>佐藤 由佳 さん</p> 	<p>今年度より学生支援室にて、学校支援ボランティアとアクティビティを担当させていただきます。人と人との関わりの中で、心身共に大きく成長していきたいです。ご指導の程よろしくお願いします。</p>
<p>野村 早紀 さん</p> 	<p>先の3月に仙台大学を卒業し、今年度から学生支援センター内のボランティアセンターを担当させて頂くことになりました。ボランティアコーディネーターとして学生と依頼先との橋渡しになれるよう、精一杯務めたいと思っております。ご指導の程、よろしくお願い致します。</p>	<p>目黒 志歩 さん</p> 	<p>スポーツ健康科学研究実践機構で働く事になりました。不慣れなため、皆様方にご迷惑をお掛けしてしまう事もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いします。</p>
<p>佐藤 志帆 さん</p> 	<p>今年度より学生支援室にてノートテイク、キャンパスライフサポートを担当させていただきます。将来の養護教諭を目指し、学生の悩みに寄り添い、大学生活が充実したものになるよう手助けできればと考えています。よろしくお願い致します。</p>	<p>茗荷谷なつみさん</p> 	<p>昨年度、仙台大学を卒業し、今年度から学生支援センターの留学生語学支援を担当させて頂くことになりました。在学中お世話になった恩を忘れず、様々な経験を通して成長できるよう努力して参ります。何卒、ご指導の方よろしくお願いします。</p>
<p>佐藤 夕貴 さん</p> 	<p>今年度より健康管理センターに勤務させていただきます。仙台大学で働かせていただけることに感謝し、一生懸命取り組みたいと思います。よろしくお願い致します。</p>		

ドイツ・オルデンブルク大学との交換留学生在が来訪



左から朴澤学長、阿部・若井各副学長、ゼーレンさん、郷野さん、鎌田国際交流センター長、小松恵一教授

4月1日（月）、本学と国際交流協定を締結しているドイツ・オルデンブルク大学からの交換留学生ーゼーレン・ニーヴィントさん（28歳）と、オルデンブルク大学での1年間の交換留学を終え帰国した本学の郷野茂さん（体育学科3年ー宮城野高校出）が、鎌田国際交流センター長及び小松恵一教授（国際交流センター委員・ドイツ担当）と共に学長室を訪れました。

オルデンブルク大学人間・社会科学部体育学科6セミスター生のゼーレンさんは、「将来の夢は、ギムナジウム（日本の中高一貫校に相当）の教師になること。留学の期間は半年間と短いですが、何事にも積極的に取り組み有意義な時間を過ごしたい。「剣道」と「スポーツ栄養学」の授業を楽しみにしている」と留学の抱負を笑顔で話しました。

また、郷野さんは、「ドイツ留学で得た友人たちはかけがえのない財産。これからも交流を図っていきたい」「ドイツの文化に肌で触れ、ドイツの良さを実感できたし、日本の良さも学べた。この貴重な留学経験を大学生活の中で生かしたい」と感想を話しました。

仙台大学とオルデンブルク大学をつなぐ仲介役である小松恵一教授（哲学）は、「留学は自分の国と自分自身の再発見ができる機会である。異文化の人の考え方や価値観に触れることは大きな刺激になる。戸惑うことも多いと思うが、ゼーレンさんには日本人に対し、共感的な態度を培ってほしい」と留学の意義や期待が述べられました。

台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を締結



前列左から3番目が劉学長、4番目が朴澤学長

仙台大学は4月6日（土）、本学管理研究棟2階大会議室において、台湾・台東大学と「教育に関する協定書」を改めて締結しました。仙台大学と台東大学は、2003年の交流開始から10年目という節目を迎えたこと、そして、両大学の現学長が協定書を締結した当時とは異なっていることから、改めて調印式を行うことになりました。

調印式には、本学からは朴澤学長・阿部・若井各副学長・鎌田国際交流センター長ら12名が、台東大学からは劉学長・蔡国際交流センター長ら4名が出席しました。

朴澤学長と劉学長は協定書を取り交わすと、相互により緊密な連携協力を確認し合いました。

調印式で劉学長は「台東大学からの留学生を立派に育てて頂いて感謝している。これからも互いに成長していきたい。今年中に新しいキャンパスが完成する。完成式の際には、ぜひ台東大学に来てほしい」と述べられ、朴澤学長は「ダブルディグリー制で今年3月に卒業し、台東大学と仙台大学の2つ



の学位を取得した盧彦中さんは、台湾代表のスケルトン選手になった。学生交流や教育交流をますます深めていきたい。来年新キャンパス完成の暁には、ぜひお伺いしたい」と述べました。

なお、本学では、台湾・台東大学の他に、スポーツ科学を中心とした分野で、中国や韓国・アメリカ・フィンランド・タイ・ベトナム等の世界各国の大学と交流を行っています。

東日本大震災こども未来基金交付式



左から西塚学生支援室長、山谷教授、朴澤学長、高成田教授(東日本大震災こども未来基金理事長)、大山学生支援センター長

4月12日(金)、昨年に引き続き、東日本大震災で親を亡くしたり、親が重度の障害を負ったりした子ども達に学資支援を行うNPO法人「東日本大震災こども未来基金」に、学内で集めた約30万円を寄付する「交付式」が学長室で行われました。寄付したお金は、昨年10月に開催した「東北こども博」のイベント売上金と商工会協賛金、大学祭でのチャリティーバザール売上金と募金、学内ボランティアセンターでのカウンター募金により集められたものです。

仙台大学東北こども博実行責任者である山谷幸司教授から、東日本大震災こども未来基金理事長の高成田享教授に目録が贈呈され、高成田教授からは仙台大学に対し、感謝状が授与されました。

スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミーが「優秀賞」を受賞



「優秀賞」に輝いた映像アカデミー所属学生たち
(4月18日・第三体育館映像スタジオ)

平成25年2月16日(土)、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターで「平成24年度仙台市自作視聴覚教材審査会」(主催:仙台市教育委員会)が開催され、仙台大学スポーツ情報マスメディア学科映像アカデミー(旧仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所映像アカデミー)の出品作品「仙台市におけるスポーツ振興」(DVDビデオ約20分)が社会教育部門において「優秀賞」を受賞しました。

同自作視聴覚教材審査会の開催趣旨は、「学校教育及び社会教育ともに学習内容が多様化し、学習内容に対応するきめの細かい自作教材の制作と確保が極めて重要になってきている。また、郷土の自然、歴史、文化等に関する視聴覚教材の充実が強く求められている。そこで、視聴覚教材自作活動の促進と内容の充実、制作技術の向上を図るため、同審査会を開催する」というものです。「優秀賞」受賞作品の「仙台市におけるスポーツ振興」DVDビデオの制作に、学生の指導的立場で携わった小野寺努臨時職員は、「仙台市内には様々なスポーツ団体や

スポーツ活動があるので、その一部を紹介し、知ってもらいたいことを意図した。また、スポーツ振興の一部に役立つ映像ソフトを制作することも目的の一部とした。取り上げたスポーツは、「地域スポーツ(ノルディックウォーキング、パークゴルフ等)」・「高齢者スポーツ(ペタンク、弓道等)」・「子ども向けスポーツ(ドッチビー、トランポリン等)」・「障害者スポーツ(車椅子バスケットボール等)」・「市民参加スポーツイベント(マラソン等)」の5つで、「地域色の強いもの」「あまり知られていないもの」を中心に「多くの人に知ってもらおう」を基本とした」と企画の意図を話されました。

ささきまこと

同映像アカデミー所属学生の佐々木誠さん(スポーツ情報マスメディア学科3年一登米高校出)は「応募作品が評価されて嬉しい。取材を通して、多くの出会いをし、自分自身が成長できた」「テレビ局の映像ディレクターの仕事に関心がある。大学卒業までにスポーツドキュメンタリーを制作してみた

おおともこうき

い」と意欲的に話し、大友晃貴さん(スポーツ情報マスメディア学科3年一名取高校出)は「良い作品に仕上げるために必死だった。審査員の方から出演者の表情がとても良かった、インタビュアーが良いから良い表情を引き出せたとお褒めの言葉を頂き、自信になった」「ラジオ局のディレクターを目指している。これからも学外に足を延ばし、積極的に取材したい」とそれぞれ今後の抱負を意欲的に話しました。

なお、同映像アカデミーの優秀賞受賞作品は、仙台市の小中学校及び社会教育の学習教材として利用されます。

「第7回しばたまちさくら回廊ボート体験会」を開催



ロンドン五輪ボート競技日本代表の岩本亜希子選手(中央)

4月20日(土)、柴田町内を流れる白石川北船岡河川敷を会場に、「第7回しばたまち白石川さくら回廊ボート体験会」が開催されました。

当日は柴田町内の中学生など約20名が参加し、満開の桜の中、仙台大学漕艇部員が同乗したボートを実際に漕ぎながら、白石川堤に咲く桜を眺めていました。

また、今回はロンドン五輪ボート競技日本代表の
いわもとあきこ
岩本亜希子選手(アイリスオーヤマボート部)や

おおもとひでき

OB大元英照選手(アイリスオーヤマボート部-H18年体育学科卒-塩釜高校出)も参加し、中学生にとっては貴重な時間となったようでした。

参加した中学生は「初めてのボート体験は楽しかった。また、桜も見ることができたのでよかった。オリンピック選手と一緒に体験することができてうれしかった」と語り、なかなかできない体験を楽しんでいる様子でした。

この体験会は、町内の中学生などが、身近にある豊かな自然を通し自分たちが住む町のすばらしさを再認識する、川の環境を保つ大切さを肌で感じる、柴田町の方々に漕艇を通して、スポーツに興味・関心を持って頂くことを目的に開催されているものです。

参加者への指導に携わった本学漕艇部員は「素晴らしい桜並木の下を漕ぐ経験は柴田町でなければできないこと。自分も含め、参加した子供たちに楽しんでもらえてよかった」と語り、主催者、参加者共に有意義な時間を過ごせたようでした。

<報告：漕艇部コーチ 石森靖明>

留学生歓迎お花見開催



仙台市では21日(日)朝、4月下旬としては昭和22年以来66年ぶりに積雪が観測されました。19日(金)お花見当日もその天気の前兆ともいえるほど寒空ではありましたが、留学生の歓迎会を兼ねたお花見会が船岡城址公園にて開催されました。夕方まで吹き荒れていた風も留学生を歓迎するかのようにおさまり、終始和やかな雰囲気での会が進行しました。

お花見会では、とある留学生が映画「スター・ウォーズ」の中の悪の大ボスであるダースベーダーの格好で、テーマソングを奏でる留学生と一緒に登場するという、サプライズがあり、大いに盛り上がりました。話す人が「寒いけれども…」と口にするたびに、「いや! 熱いこう!」という声が飛び交い学内でみせることのない笑顔がありました。

<留学生からのコメント>

「ある先生が、中国の元総理の周恩来氏と握手をしたことがあると聞いて驚いた。ちなみに、周恩来氏は私が一番尊敬している方だ。その先生と色々な話をして、写真を撮れてよかった。」(中国留学生)

「ドイツには桜祭りがないので、お花見はとても楽しかったです。」(ドイツ留学生)

お花見会には、想像以上の参加者が集まり、大いに賑わいました。このようなイベントを通して、留学生との親睦を深めていきたいと思います。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ・石栗はるか>



第7回体育施設管理士 資格認定証授与式



体育施設管理士資格認定証を授与された学生たち

4月25日（木）、本学管理研究棟2階大会議室で「第7回体育施設管理士資格認定証授与式」が執り行われ、朴澤学長から学生一人ひとりに認定証が授与され、講話も頂きました。

体育施設管理士は、財団法人日本体育施設協会が認定している資格で、国家資格ではありませんが、教育委員会系列を主とした全国の体育施設に従事している者の中で、一定の知識のあるものに対して付与している資格です。

今回、同認定試験に合格した本学学生（43名合格）の中でトップの成績だったしみずかずや

清水和也さん（体育学科4年－郡山北工業高校出）は、「将来はスポーツ指導員を目指している。施設管理や安全管理に気を配れるスポーツ指導員になりたい。体育施設管理士の資格を就職試験でアピールしていきたい」と話しました。小島文雄体育施設管理コンサルタントは、「体育施設管理士の有資格者には、顧客満足度を満たす管理と法律に基づく安全管理を念頭に置きながらあらゆる施設で活躍してほしい。人の痛みの理解できる社会人になってほしい」と激励の言葉を送りました。

東北Liga Student2013開幕 —仙台大学女子サッカー部、常盤木学園高校とドロー—



試合前の仙台大学女子サッカー部



早坂が試合終了間際にミドルシュートを決め同点とする

4月14日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「東北Liga Student2013」が開幕しました。東北Liga Studentは、東北の高等学校・専門学校・大学が相互で密な交流と情報を図り、リーグ戦を通じて技術向上に努め、女子サッカーの普及・振興に貢献し日本女子サッカー界の学生の発展に寄与することを目的とした大会(公式試合)です。仙台大学女子サッカー部の同大会初戦は、常盤木学園高校。

仙台大学は開始早々、主将の落合優子（健康福祉学科4年—東北高校出）・小島ひとみ（健康福祉学科3年—聖和学園高校出）がシュートチャンスを作るも、ゴールを割ることができませんでした。試合は一進一退の攻防が続き、何度か危ない場面を作りましたが、仙台大学ディフェンス陣の体を張った粘り強い守りで、0-0で前半を折り返しました。

ハーフタイムには、この日、黒沢監督の代行として指揮を執った本多コーチは「相手の背後を狙うこと、しっかりと丁寧にボールをつなぐこと」を指示。しかし、後半に入っても縦パスを失う場面が多く見られ、後半12分、左サイドからボールを失い、そのまま攻め込まれます。そして、うまくDFのマークを外され、フリーでシュートを決められました。

失点後は、仙台大学攻撃陣の闘争心が感じられ、良い形でのサイドからの攻撃が増えました。試合終了間際に、早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園高校出）がフリーでボールを受け、ドリブルでゴールエリア前まで持ち上がり、豪快なミドルシュートを決め、同点に追いつき、1-1の引き分けに持ち込みました。

同点ゴールを決めた早坂は「負けている苦しい状況の中、決めることができ嬉しい。次はしっかり勝ち切りたい」と闘志を燃やし、1年生ながら攻守に渡り積極的なプレーを見せました。

升川礼衣奈（体育学科1年—山形西高校出）は「ボールを持ってから焦り過ぎてボールを失うことがあった。次は、もっと頭を使って冷静にボールを動かしていきたい」と抱負を話しました。



1年生ながら攻守に渡り積極的なプレーを見せた升川

なお、東北Liga Studentは、4月～7月まで予選リーグ（12チームを2ブロックに分けて1回戦総当たりのリーグ戦、8月～11月に決勝トーナメント（上位3チームが進出）・順位別リーグを行う予定となっております。

引き続き、仙台大学女子サッカー部への熱い応援を宜しくお願い致します。

【9・10面に関連記事】

東北Liga Student2013 第2節 —仙台大学女子サッカー部 5ゴールで勝利



升川がゴール左隅へ鮮やかなシュートを決め、4-1とする



ドリブル突破する須永



ハーフタイムに指示を出す黒沢監督

東北Liga Student2013第2節、「仙台大学—聖和学園高校」が4月20日（土）仙台大学サッカー・ラグビー場で行われました。

仙台大学は前半15分、右サイドを抜けた阿部楓（体育学科3年—東北高校出）が、ゴール前にいた門間香奈実（体育学科2年—東北高校出）に鋭く低いクロスを上げ、門間がそのままダイレクトで合わせ、先制ゴールを決めました。

これで仙台大学がペースをつかめるかと思われましたが、得点を奪った5分後の前半20分に失点し、1-1の同点とされました。この嫌な流れを断ち切りたい仙台大学は前半25分、ペナルティーエリア付近で相手DFのボールを奪った

ますかわけいな
升川礼衣奈（体育学科1年—山形西高校出）が豪快なシュートを決め、2-1と勝ち越し。ここから仙台大学は落ち着きを取り戻し、自分たちのペースで試合運びました。前半30分、門間がこの日2点目となるゴールを決め、3-1で前半を折り返しました。

はやさかかなえ
仙台大学は後半開始1分、早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園高校出）のパスをゴール前で受けた升川がゴール左隅へ鮮やかなシュー

おちあいゆうこ
トを決め、4-1。後半23分、落合優子主将（健康福祉学科4年—東北高校出）が右サイドから
すながまなみ
クロスを上げ、須永愛海（体育学科1年—JFAアカデミー福島出）が体で押し込み5-1。後半27分、34分に立て続けに失点しましたが、5-3で勝利しました。

うえだえりな
フル出場したGK上田恵里那（体育学科3年—岩手・不来方高校出）は「GKとして、DF陣との連携が課題。プレーだけでなく、DFへコーチングを行い、しっかりと状況判断したい。」
「次にチャンスを与えられたら、失点をせずに、チームの勝利に貢献したい」と今後の抱負を話しました。

黒沢監督は「チーム全体としては30点。自分勝手なプレーで3失点。ボールが来る前に状況を見て判断ができていない選手が少ない。普段の練習から自分で状況を判断して、自分の頭で考えることを意識させていきたい」とチーム全体の課題を話しました。

仙台大学女子サッカー部へのなお一層のご声援を宜しくお願い致します。

【8・10面に関連記事】

東北Liga Student2013第3節 —仙台大学女子サッカー部、4-0で快勝



岩崎が鮮やかなロングシュートを決め、2-0とする



小島が豪快なシュートを決め、3-0とする



切れのある動きを見せた須永がシュートを放つ

東北Liga Student2013第3節「仙台大学—明成高校」が、4月27日（土）に仙台大学サッカー・ラグビー場で強風のなか行われました。

前半、仙台大学は強い向い風での攻撃。試合前に黒沢監督は「強い向かい風でのロングボールはボールが浮いて流される。パスをつないで攻撃を組み立てること」を選手たちに指示。

試合は終始、仙台大学ペースで進みました。前半7分、右サイドから抜けたMF門間香奈実（体育学科2年—東北高校出）がゴール前にスルーパス

を送り、MF岩崎杏奈（スポーツ情報マスメディア学科3年—前橋育英高校出）が合わせ、先制ゴールを決めました。前半26分には、岩崎が鮮やかなロングシュートを決め、この日2得点目のゴール。守りでは、ゴールエリア付近まで攻め込まれ、フリーで打たれたロングシュートをGK

遠藤徳奈美（体育学科4年—東北高校出）が見事

な反応を見せナイスセーブ。DF阿部楓（体育学科3年—東北高校出）・DF伊富貴さやか（体育学科4年—山形・羽黒高校出）らDF陣が体を張った献身的な守備を見せ、前半を2-0で折り返しました。

後半に入っても仙台大学ペースで試合が進みました。MF早坂佳苗（運動栄養学科2年—聖和学園

高校出）・MF八島麻奈（スポーツ情報マスメディア学科1年—東京・村田女子高校出）からの

パスを、FW須永愛海（体育学科1年—JFAアカデミー福島出）・FW小島ひとみ（健康福祉学科3年—聖和学園高校出）が相手DFの裏に抜け出してゴール前まで運ぶシーンが多く見られました。

後半6分、小島がドリブルで上がり、DF2人をおかわして豪快なシュートを決め3点目。後半35分には、須永が右サイドをえぐってゴールエリアに入り込むと走りこんできた門間にパス。門前からゴール前にフリーでいた早坂へきれいなパスを通しました。それを早坂がきっちり決めました。仙台大学は最後まで相手を圧倒し続け、4-0で快勝。

試合後、黒沢監督と本多コーチは「選手たちは今のボールの処理や対応が中心で、次の動きを予想する力が足りない。日々の実践を想定した練習を通して、状況を予測する力をつけていきたい」と厳しい表情で更なる選手たちの成長を期待しました。

【8・9面に関連記事】

仙台大学漕艇部から世界へ挑む —外崎海舟と中川ひかりが日本代表に選出



日本代表に選ばれた中川ひかり（左）と外崎海舟

とのさきかいしゅう

仙台大学漕艇部から男子主将の外崎海舟（体育学科4年—青森・むつ工業高校出）と女子の中川ひかり（体育学科3年—愛媛・宇和島水産高校出）がそれぞれ日本代表に選出され、世界へ挑みます。男子主将の外崎は、7月24日～28日にオーストリア・リンツで開催される「U23世界ボート選手権大会」の男子シングルスカルの日本代表に選ばれ、「パワフルさが自分の持ち味。

プレッシャーはあるが、自分の出せる力を全て出し切りたい」「上位入賞（9位以内）を目指す。実業団でも競技を続けたい。国際大会を通して人間的にも成長したい」と力強く活躍を誓いました。

また、中川は7月6日～8日にロシア・カザンで開催される「第27回ユニバーシード競技大会」のボート競技代表女子軽量級ダブルスカルの日本代表に選ばれ、「国際大会出場は高校時代からの目標。正直嬉しい」「いつも支えてくれている家族や監督・コーチへの感謝の気持ちを忘れず、しっかり結果が残せるよう頑張りたい」と少し緊張した面持ちで話しました。

仙台大学漕艇部の小谷コーチは「外崎・中川の両名は、今後の成長も期待できる素晴らしい逸材。チャレンジャーの気持ちを忘れず、自分らしく戦ってきてほしい。自分たちより実力者がいる中で自分の限界を突破してほしい」と活躍に期待を込めてエールを送りました。

世界へ挑む仙台大学漕艇部の外崎海舟、中川ひかりの活躍が期待されます。引き続き、熱いご声援を宜しくお願い致します。

仙台六大学野球春季リーグ開幕 —開幕カード1勝2敗で勝ち点を奪えず

4月13日（土）、仙台六大学野球春季リーグが開幕。

本学硬式野球部の開幕カードは、東北工業大学と1勝1敗のタイとなり、4月23日（火）に東北福祉大学野球場で第3戦が行われました。

たちばなかん

仙台大学の第3戦の先発投手は立花完（体育学科4年—土浦日大高校出）。初回を無失点に抑える好調な立ち上がりを見せまし

まつもともたろう

た。その裏、仙台大学の攻撃。3番松本桃太郎（体育学科1年—北海高校出）の二塁打で、幸先よく先制点を挙げました。しかし、5回に同点に追いつかれ、8回に2点を取られたところで、立花に

のぐちりょうた

代わって、前日の第2戦で被安打2の完封勝利を挙げた野口亮太（体育学科3年—前橋商業高校出）が2死2塁から登板。野口が投げた初球をいきなり相手4番打者に強振され、右越え2ランホームラン。1—5と主導権を握られました。

い がらしあゆむ

仙台大学は9回、3番松本のソロホームランと5番五十嵐歩（体育学科3年—帝京安積高校出）の右越え2ランホームランで1点差まで追い上げ、その後2死一、二塁の好機を作りましたが、後続が倒れ、惜しくも4—5の敗戦となりました。

開幕カードは残念ながら勝ち点を落としましたが、引き続き、本学硬式野球部への温かい声援を宜しくお願い致します。



第3戦に先発した立花投手

【12面に関連記事】

仙台六大学野球春季リーグ第三節一連勝で今季初の勝ち点



9回5安打無四球8奪三振でリーグ戦初勝利を完封で飾った熊原投手



0-0で迎えた5回裏、2死二塁から2番青木主将が決勝の中前打を放つ

4月28日（日）、東北福祉大学野球場で、仙台六大学野球春季リーグ第三節2回戦「仙台大学ー宮城教育大学」が行われました。

仙台大学の先発投手熊原健人（体育学科2年ー柴田高校出）は、初回を二者連続三振と外野フライ、2回は三者連続三振に抑える素晴らしい立ち上がりを見せました。

打線は5回裏、2死から四球で1番我妻真太郎（体育学科4年ー山形中央高校出）が出塁。我妻

が盗塁を決め、2死二塁。続く2番青木一将主将（体育学科4年ー東京農業大学第二高校出）がセンター前にヒットを打ち、我妻が還って1点を先制。最大のピンチは8回表、2死二塁からライト前にヒットを打たれ、二塁走者が一気に本塁を狙いましたが、ライト柳田恭平（体育学科4年ー北海道・鶴川高校出）からの好返球でタッチアウト。

この日の熊原の最速は142キロ。球威のあるストレート、切れ味鋭いスライダーを軸に宮城教育大学打線を散発5安打無四球8奪三振と好投。バックの固い守りにも助けられ、嬉しいリーグ戦初勝利を完封で飾りました。

仙台大学は1-0で宮城教育大学を下して連勝（1回戦は9-0で七回コールド勝ち）し、今季初の勝ち点を挙げました。

試合後、森本監督は「熊原が要所を締め、いつも通りの力でよく投げてくれた。第三節（宮城教育大学戦の2試合）は、無四球・無失策の試合ができた。これが負けない、常勝チームの条件。次節も守り勝ちたい」と話し、気を引き締め直していました。

仙台六大学野球春季リーグ第四節は、5月3日（祝・金）13時30分～（VS東北大学1回戦）及び5月5日（日）11時～（同2回戦）が東北福祉大学野球場で行われる予定です。

【11面に関連記事】

<編集後記>

今回のMonthly Reportから表紙のデザインが新しくなりました。写真や色で「春」を演出してみました。いかがでしょうか。毎月、写真や色を変えて、季節感を出していきたいと思っております。

4月1日付で新たに教職員24名が加わりました。全教職員の皆様に楽しみにして頂けるような、親しまれる紙面づくりを心がけて参りたいと思っております。

皆様からのたくさんのご意見・ご感想をお待ちしております。

広報室